

(都道府県名：熊本県 令和5年度)

新面積は、増加したものの、ハウス資材が高騰したこと、目標の無加温・屋根掛面積には届かなかった。それに伴い、無加温・屋根掛けと露地栽培の出出荷量と収量も未達であった。また、加温栽培では、夏場にもビニル被覆を行ったことで、温度が上がりすぎ、着色遅れ、クレーミングが発生してしまい秀品率が低下した。

無加温・屋根掛けや露地栽培でも、少雨により高酸果実が多くなり秀品率が低下した。今後は、夏場のビニル被覆や灌水、温度を低く抑えるとともに、適切な水管理を行い、秀品率を上げるよう努める。今後、屋根掛けの面積を増やし、ブランド品の割合と回収を伸ばしていく。

加温栽培が初収穫を迎えたが、加温栽培への取組みが初めてであり、栽培技術が未熟だったことと、令和5年度においては、夏秋期の気温が平年よりかなり高く、少雨だったため、高酸果実が多く入り、ブランド率が低下したため、両目標とも達成できなかったと考えられる。そのため、関係機関と連携し、栽培体系や樹齢、高酸少雨に適したかん水技術の指導等につけて支援していく。

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象作物・畜種等名)①	類別	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績①	メニュー② (対象作物・畜種等名)②	類別	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
					計画時 (令和元年)	1年後 (令和3年)	2年後 (令和4年)	3年後 (令和5年)	目標値 (令和5年)	達成率					計画時 (令和元年)	1年後 (令和3年)	2年後 (令和4年)	3年後 (令和5年)	目標値 (令和5年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他				
玉名市	玉名いちご生産組合	野菜(いちご)	I1	【野菜】(上位規格品等の割合に関する目標)全出荷量に占める上位規格品等の割合を3ポイント以上増加	全出荷量(kg)	全出荷量(kg)	全出荷量(kg)	全出荷量(kg)	全出荷量(kg)	101.3%	上位規格品の割合が15.2ポイント増加した	野菜(いちご)	I2	【野菜】(10a当たり収量に関する目標)10a当たり収量を3%以上増加	総面積(a)	総面積(a)	総面積(a)	総面積(a)	総面積(a)	108.6%	10a当たり収量が16.3%増加した	低コスト耐候性ハウス	113,190,000	54,952,000	0	0	58,238,000	令和3年9月14日	組合員同士連携して技術向上に努め、収量、上位規格品の割合が増加した。	低コスト耐候性ハウス及び高設ベンチ等の導入により、収量・品質の向上が図られ、目標を達成することができた。今後も引き続き、安定生産・出荷を図り、経営安定につなげてほしい。	
八代市	八代地域農業協同組合	野菜(トマト)	I1	【野菜】(上位規格品に関する目標)上位規格品(秀品・糖度6.0%以上)の割合を15.0ポイント増加	総出荷量(kg)	総出荷量(kg)	総出荷量(kg)	総出荷量(kg)	総出荷量(kg)	-27.3%	上位規格割合が計画時より4.1ポイント減少した	野菜(トマト)	I2	【野菜】10a当たり収量を15%増加	総面積(a)	総面積(a)	総面積(a)	総面積(a)	総面積(a)	77.8%	10a当たりの収量が計画時より11.6%増加した。	低コスト耐候性ハウス(屋根型)2棟3,537.4㎡	75,680,000	34,400,000	0	0	41,280,000	令和4年3月1日	3月下旬以降の断続的な降雨・日照不足によって、灰色かび病を中心とした病害発生が増加や着果不良および果実肥大の抑制によって終盤の出荷量は平年を大きく下回った。特に環境制御装置の導入されていない圃場で強く影響をうけて反収・上位規格品の目標を達成することができなかった。	収穫終盤の天候不順により、生育が停滞し、収量が伸び悩んだ。上位規格割合についても、小玉果等が多く発生したことで、目標を達成することができなかった。今後は適期栽培管理を徹底し、導入した低コスト耐候性ハウスの効果が最大限に発揮され、目標を達成できるよう指導していく。	
八代市	八代地域農業協同組合	野菜(トマト)	I1	【野菜】(上位規格品に関する目標)上位規格品(秀品・糖度6.0%以上)の割合を15.0ポイント増加	総出荷量(kg)	総出荷量(kg)	総出荷量(kg)	総出荷量(kg)	総出荷量(kg)	-28.6%	上位規格割合が計画時より4.3ポイント減少した	野菜(トマト)	I10	【野菜】10a当たり販売額を15%増加	総面積(a)	総面積(a)	総面積(a)	総面積(a)	総面積(a)	-2.7%	10a当たりの販売額が計画時より0.4%減少した。	低コスト耐候性ハウス(丸鋼管ハウス)2棟8,739.0㎡	86,460,000	39,300,000	0	0	47,160,000	令和4年3月14日	定植時高温傾向で推移したことで、特に被覆ハウスにおいては活着不良による徒長や低段の着果不良が見られ、生育初期は厳しい状況であった。出荷は平年よりやや前倒しでの開始となったものの高温乾燥の影響を受け、裂果の発生が多く可販果率が低下し、出荷量が少なく推移した。今年産は生育初期の極度の高温乾燥や暖冬傾向で推移したことで、コナジラミの発生がシーズンを通して多く、基本的な防除は行っていたものの作の終盤に黄化葉巻病が見受けられ、作の終盤であったため植替え等の対策もできず著しく品質に影響が出た。	初期生育の遅れや作終盤の黄化葉巻病の発生が収量・品質に大きく影響した。今後は適期栽培管理と黄化葉巻病対策を徹底し、導入した低コスト耐候性ハウスの効果が最大限に発揮され、目標を達成できるよう指導していく。	

市町村名	事業実施主体名 (対象作物・畜種等名)①	メニュー①	類別	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績① (対象作物・畜種等名)②	メニュー②	類別	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分 (円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
					計画時 (令和元年)	1年後 (令和3年)	2年後 (令和4年)	3年後 (令和5年)	目標値 (令和5年)	達成率					計画時 (令和元年)	1年後 (令和3年)	2年後 (令和4年)	3年後 (令和5年)	目標値 (令和5年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他				
八代市	八代地域農業協同組合	野菜 (トマト)	I1	【野菜】 (上位規格品に関する目標)上位規格品(秀品・糖度6.0%以上)の割合を15.0ポイント増加	総出荷量(kg) 431,859	総出荷量(kg) -	総出荷量(kg) 477,361	総出荷量(kg) 441,187.4	総出荷量(kg) 659,102.0	-56.9%	野菜 (トマト)	I2	【野菜】 10a当たり収量を15%増加	総面積(a) 252.0	総面積(a) -	総面積(a) 309.0	総面積(a) 308.0	総面積(a) 334.4	-109.3%	10a当たりの収量が計画時より16.4%減少した。	低コスト耐候性ハウス(角従来型)3棟 8,284.9㎡	106,260,000	48,300,000	0	0	57,960,000	令和4年3月14日	定植後、高温で推移したことで高温乾燥の影響を強く受け裂果等が発生し、選別に時間がかり作業の遅れが発生した。併せて3月下旬以降の断続的な天候不順によって、灰色かび病を中心とした病害発生の増加や着果不良および果実肥大の抑制によって終盤の出荷量は平年を大きく下回ったため目標を達成することができなかった。	初期生育の停滞や収穫終盤の天候不順の影響で収量が伸び悩んだ。上位規格割合についても、小玉果等が多く発生したことで、目標を達成することができなかった。今後は適期栽培管理を徹底し、導入した低コスト耐候性ハウスの効果が最大限に発揮され、目標を達成できるよう指導していく。		
上天草市	農事組合法人大矢野有機農産物供給センター	果樹 (うんしゅうみかん、中晩柑)	H11	【果樹】 10a当たりの販売額を15.2%増加	作付面積(a) 1,799.00	作付面積(a) 2,515.00	作付面積(a) 2,182.00	作付面積(a) 2,218.00	作付面積(a) 2,400.00	85.2%	野菜 (たまねぎ、かぼちゃ)	I5	【野菜】 契約取引の割合を33.3ポイント増加	全出荷量(kg) 310,900	全出荷量(kg) 346,788	全出荷量(kg) 262,662	全出荷量(kg) 263,223	全出荷量(kg) 380,000	117.4%	全出荷量に占める契約取引の割合が計画時より39.1ポイント増加した。	集出荷貯蔵施設848.1㎡、内・外光センサー1台、予冷施設255.6㎡、付帯施設100㎡	218,108,000	67,784,000	0	0	150,324,000	令和4年3月18日	果樹のうち、うんしゅうみかんについては、目標をクリアできたが、中晩柑については、生産面積、総出荷量ともに、目標値をクリアできなかった。栽培面積の減少や、R5年の少雨の影響による腐敗などが原因と思われる。R1年からは、着実に実績を伸ばしているのので、今後もクリアできるように、栽培技術の見直しや面積拡大に取り組んでいく。野菜は、目標は達成できたものの、出荷量は未達であった。これは、R4に耕作者の1名が離農されたことやR4以降全体的に不作が続いたことが原因と考えられる。今後は、生産面積及び総出荷量の増加をはかりながら、実績をクリアしたい。	令和5年産は、温州みかんが、夏秋期の少雨により、小玉となったことや、中晩柑が収穫期の降雨により腐れが多かったことで、10a当たり収量が低下したことが販売額未達成の一因と考えられる。干ばつ時における栽培技術の改善や、適期収穫などにより、反収を増加するよう、関係機関と連携して支援していく。		
都道府県平均達成率		42.8%		総合所見	・本県において、本年度の事業評価の対象となったのは6事業であり、成果目標は達成率90%で目標達成としている。（90%未満で未達成とし、次年度以降改善報告書を求めていることとしている。）2つの成果目標をともに達成したのが1事業、片方だけ達成したのが1事業、2つの成果目標をともに達成しなかったのが4事業であった。本県の平均達成率は42.8%であった。 ・成果目標が未達成となった地区の主な要因等は次のとおり。 ①天候不順・・・収穫終盤による天候不順のため出荷量並びに上位規格品の減少（八代市：トマト）、夏秋期の少雨や収穫期の降雨による10a当たりの収量が伸びず販売額も目標値に届かなかった（上天草市：果樹）。 ②病害虫の発生・・・黄化葉巻病による収量減（八代市：トマト） ③栽培技術不足・・・初成りということもあり、栽培技術が定着していなかったため収量減（宇城市：果樹） ・なお、成果目標が未達成の事業については、今後、事業主体に対して改善計画の策定及びその実践を指導するなど、地元市町と連携して目標達成に向けた取組みを推進していく。																										

- (注) 1 別紙様式1号の1の（2）のIに準じて作成すること。
- 2 要綱第3の2の（2）のアの（ア）のただし書きの場合にあっては、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。
- 3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。
- 4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。
- 5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。
- 6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。